

第 174 回 学長定例記者会見

日時：令和 6 年 12 月 25 日（水）11：00 ～ 11：30

場所：広島大学 霞キャンパス 臨床管理棟 3 階 大会議室

（広島市南区霞 1-2-3）

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 第 6 回広島大学知のフォーラム  
広島大学から世界へ～世界のトップ研究者に聞く～  
ノーベル化学賞受賞者 デビッド・マクミラン博士による講演会を開催  
します（1/10 開催）
2. 2024 年 4 月設置の国産次世代 CT（断層撮影装置）  
導入は世界で 3 台目。高精度で被ばく線量の少ない診断の実現が可能に。
3. 第 33 回ペスタロッシー教育賞 表彰式・記念講演を開催します  
（1/30 表彰式）

【お知らせ事項】

1. 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（通称 J-PEAKS）」の取組に  
関する報告
2. 公開セミナー「少子化とジェンダー平等：地域間格差を考える」を開催  
します（1/22）

■ 次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和 7 年 1 月 28 日（火）

場所： 広島大学 東広島キャンパス



令和 6 年 12 月 25 日

広島大学から世界へ  
～世界のトップ研究者に聞く～第 6 回「知のフォーラム」  
ノーベル化学賞受賞者  
デビッド・マクミラン博士による講演会を開催

広島大学では、ノーベル賞受賞者の講演会「知のフォーラム」を 2016 年より不定期で開催しています。未来の科学者を目指す学生たちにとって、世界を驚かせた発見や研究を間近に体感できる貴重な機会となっています。

このたび、2021 年にノーベル化学賞を受賞されたデビッド・マクミラン博士をお迎えし、第 6 回「知のフォーラム」を下記のとおり開催します。

マクミラン博士は、環境に優しく安価に製造できる第 3 のタイプの触媒「不斉有機触媒」の開発により有機触媒研究の著しい発展に寄与したとして、ベンジャミン・リスト博士とともにノーベル化学賞を受賞されました。当日は、博士のご講演の前に、大学院医系科学研究科の熊本 卓哉教授が日本語で博士の研究について解説します。

世界のトップ研究者のお話を聞くことができるまたとない機会です。世界トップレベルの最先端研究を体感してください。

記

【日時】 2025 年 1 月 10 日（金）12：35～14：25

【会場】 広島大学 東広島キャンパス 経済学部講義棟 2 階 パラカ講堂 257  
※ハイブリッド開催

【講演者】 デビッド・マクミラン博士（プリンストン大学・教授）

【対象】 どなたでも参加できます（高校生以上推奨）  
※言語：英語・日本語（同時通訳あり）

【定員】 現地：380 人、オンライン：500 人（いずれも先着順）

【申し込み】

以下のサイトからお申し込みください。申込期限：1月9日（木）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/research/news/87562>

【会場案内図】



※お車で越しの際は、有人ゲート（1ゲート又は3ゲート）からお入りいただき、構内の空いている駐車場をご利用ください。

◆駐車場に関する情報：

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/centers/welfare\\_facilities/parking\\_lots](https://www.hiroshima-u.ac.jp/centers/welfare_facilities/parking_lots)

【取材】

講演中の写真撮影が可能です。報道機関の方で会場での参加を希望される方は2025年1月6日（月）までに下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【お問い合わせ先】

未来共創科学研究本部  
研究戦略推進部門 宮良  
TEL:070-6645-2583





HIROSHIMA UNIVERSITY



J-PEAKS

第6回 広島大学知のフォーラム

# 広島大学から世界へ

～世界のトップ研究者に聞く～

David W. MacMillan 博士

米国の有機化学者。プリンストン大学教授。  
不斉有機触媒の開発により、2021年にベンジャミン・  
リスト博士とともにノーベル化学賞を受賞。

2025  
1/10 Fri  
12:35 ▶ 14:25



場所 | 経済学部講義棟2階 パラカ講堂 257  
※ハイブリッド開催

対象 | どなたでも参加できます(高校生以上推奨)

言語 | 英語・日本語(同時通訳あり)

定員 | 現地:380名、オンライン:500人(いずれも先着順)  
※後日動画配信あり(大学公式YouTube)



## 来たれ！未来の科学者たち

第5弾に引き続き、世界トップ研究者の招待講演として、米国のデイヴィッド・マクミラン博士の講演会を開催いたします。不斉有機分子触媒であるマクミラン触媒を用いた不斉合成や可視光レドックス触媒の研究は、有機合成の分野に革命をもたらし、医薬品や新素材開発の可能性を大きく広げました。そのことが評価され、2021年にベンジャミン・リスト博士とともにノーベル化学賞を共同受賞されました。

世界トップ研究者のお話を身近に聞ける、またとない機会です。  
未来の科学者を目指す皆さん、きっと新たな夢と情熱が湧いてくるはずです。

広島大学長 越智 光夫

申込方法

ウェブサイトのフォームよりお申し込みください。  
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/research/news/87562>



お問い合わせ先

広島大学 学術・社会連携室 未来共創科学研究本部  
研究戦略部 研究戦略推進部門(担当:宮良)  
Email: husympo@hiroshima-u.ac.jp

## David W. MacMillan 博士

2021 年にベンジャミン・リストとともに「不斉有機触媒の開発」によりノーベル化学賞を受賞した米国の有機化学者。米プリンストン大学教授。



1991 グラスゴー大学 卒業

1996 カリフォルニア大学アーバイン校 博士号取得 (L.E.Overman 教授)

1998 ハーバード大学 博士研究員 (D.A.Evans 教授)

1998 カリフォルニア大学バークレイ校 着任

2000 カリフォルニア工科大学へ異動

2004 カリフォルニア工科大学 Earle C. Anthony Professor of Chemistry

2006 プリンストン大学 A. Barton Hepburn Professor of Chemistry

2011 プリンストン大学 James S. McDonnell Distinguished University Professor of Chemistry

## 【これまでに実施したノーベル賞受賞者の講演会】

|                                   |                                                                                                       |
|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 下村 脩先生<br>(2008年ノーベル化学賞)          | 第45回広島大学講演会 (2011年)<br>『緑色蛍光たんぱく質発見とノーベル賞受賞への道のり』                                                     |
| 鈴木 章先生<br>(2010年ノーベル化学賞)          | 第50回広島大学講演会 (2011年)<br>『世界を変えたクロスカップリング反応－次世代を担う人々へのメッセージ』                                            |
| 益川 敏英先生<br>(2008年ノーベル物理学賞)        | 第57回広島大学講演会 (2012年)<br>『現代社会と科学』                                                                      |
| 山中 伸弥先生<br>(2012年ノーベル生理学・医学賞)     | 第1回「知のフォーラム」 (2016年)<br>『iPS細胞がひらく新しい医学』                                                              |
| ジョン・ガードン先生<br>(2012年ノーベル生理学・医学賞)  | 第1回「知のフォーラム」 (2016年)<br>『Nuclear reprogramming and prospects for cell replacement』                    |
| 梶田 隆章先生<br>(2015年ノーベル物理学賞)        | 第2回「知のフォーラム」 (2016年)<br>『ニュートリノの小さい質量の発見』                                                             |
| ポール・ナース先生<br>(2001年ノーベル生理学・医学賞)   | 第3回「知のフォーラム」 (2017年) 『My Life in Science』／<br>番外編：知のフォーラム in Tokyo (2019年)                            |
| ムハマド・ユヌス先生<br>(2006年ノーベル平和賞)      | 第86回広島大学講演会 (2018年)<br>『スリーゼロ社会を目指して』                                                                 |
| 大隅 良典先生<br>(2016年ノーベル生理学・医学賞)     | 情報科学部・総合科学部国際共創学科 設置記念式典 (2018年)<br>『半世紀の研究を振り返って思うこと』                                                |
| 天野 浩先生<br>(2014年ノーベル物理学賞)         | 第4回「知のフォーラム」 (2019年)<br>『Transformative Electronicsが築く未来社会』                                           |
| 本庶 佑先生<br>(2018年ノーベル生理学・医学賞)      | 統合生命科学研究科・医系科学研究科設置記念講演会 (2019年)／<br>広島大学医学部創立75周年記念式典 (2021年)<br>『獲得免疫の驚くべき幸運』                       |
| 吉野 彰先生<br>(2019年ノーベル化学賞)          | 人間社会科学研究科・先進理工系科学研究科設置記念講演会 (2020年)<br>『リチウムイオン電池が拓く未来社会』                                             |
| ハーベイ・オルター先生<br>(2020年ノーベル生理学・医学賞) | 第5回「知のフォーラム」 (2021年)<br>『HEPATITIS C: THE END OF THE BEGINNING AND POSSIBLY THE BEGINNING OF THE END』 |



## 第 174 回 学長定例記者会見 発表事項 2

令和 6 年 12 月 25 日

### 2024 年 4 月設置の国産次世代 CT(断層撮影装置) 導入は世界で 3 台目。高精度で被ばく線量の少ない診断の実現が可能に。

広島大学病院は、2024 年 4 月にキヤノンメディカルシステムズの次世代コンピュータ断層撮影装置(Photon Counting Detector CT: PCD CT)を導入しました。キヤノンメディカルシステムズの PCD CT は、臨床での使用が可能なプロトタイプであり、当院への導入は世界で 3 台目となります。これまでに約 100 例の患者さんをこの PCD CT で診断し、従来の CT 装置に比べ、診断精度の向上が確認されています。

つきましては学長定例記者会見の終了後、次世代 PCD CT 装置の説明会を開きます。実機も下記の時間に見学が可能ですので、是非、ご参加ください。

#### 記

日 時：12 月 25 日(水) 説明会 11:30 (定例会見終了後) ～ 12:00  
見学会 14:00 ～ 15:00(広島大学病院入院棟 B1)

出席者： 広島大学大学院医系科学研究科 放射線診断学 栗井和夫 教授  
中村優子 准教授

CT(コンピュータ断層撮影)は、X 線を使って人体の断面を画像化(輪切り)し、体内の様子を立体的に把握できる検査技術です。病気の広がりや治療効果の判定などに使われ、現在、必須の医療技術となっています。最近、従来の CT とは異なる X 線検出法を用いることで高精度な画像診断を可能にする Photon Counting Detector CT(以下 PCD CT)が注目されています。

4 月に導入した CMS 製 PCD CT



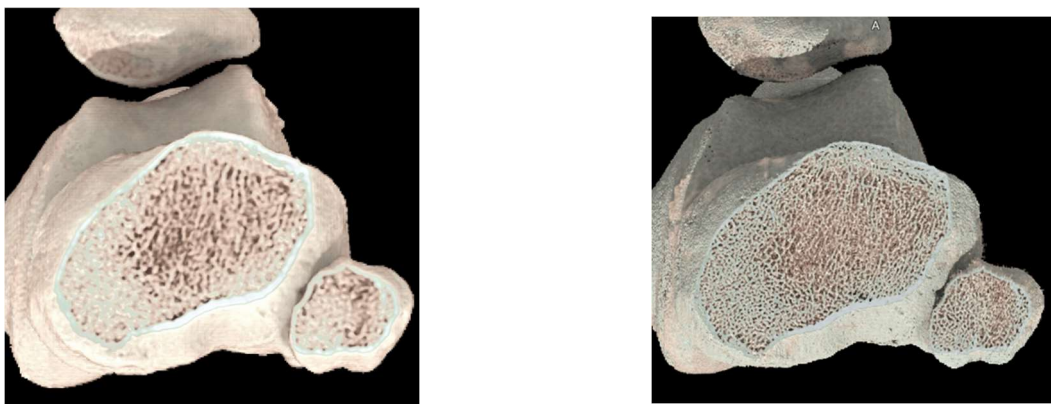
従来の CT は、X 線をいったん光に変換し、その後電気信号に変換して画像を取得していますが、光に変換する際に X 線の情報の一部が失われていました。これに対し、PCD CT は、検出器に半導体を用いることで、X 線を直接電気信号に変換でき、X 線の情報を損失することなく画像を取得することが可能です。PCD CT は、従来の CT と比べ、より小さい構造の描出や病変と非病変部との違いを際立たせることで高精度な画像診断を可能とし、さらに被ばく線量の低減も期待され

ています。PCD CT は次世代 CT と言われており、今後 20 年ほどで従来の CT に置き換わると予想されています。

広島大学病院は、2010 年から東芝メディカルシステムズ(2018 年 1 月よりキヤノンメディカルシステムズへ社名変更)と CT の開発等で共同研究を重ねてきました。キヤノンメディカルシステムズの PCD CT は、1 号機が 2023 年 4 月に国立がん研究センター東病院(千葉県柏市)へ、2 号機はオランダのラドバウド(Radboud)大学へ、3 号機が当院へ、4 号機は先月米国のペンシルベニア大学へ導入されています。一方、海外メーカーでは、シーメンス社が 2021 年に初めて臨床向けの PCD CT を販売しています。

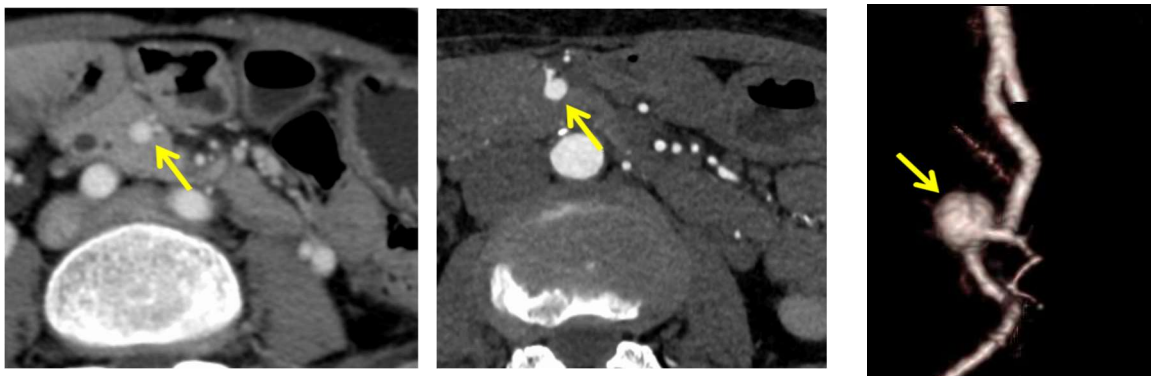
当院では、これまで約 100 例の患者さんを PCD CT で撮影・診断しました。同一患者さんの膝関節を従来の CT と PCD CT で撮影した画像では、従来の CT (左図) では骨内の微細な構造がぼやけて不鮮明でしたが、PCD CT では明瞭に描出されていることがわかります (図 1-2)。

(図 1) 膝関節 CT (3 次元画像)  
従来の CT PCD CT



また、従来の CT では血管病変(動脈瘤)と腫瘍性病変の鑑別が難しかった症例を PCD CT で撮影し、小さな血管との連続性をあきらかにすることで動脈瘤であることが診断できた症例も経験しています (図 2)。

(図 2) 腹部造影 CT  
従来の CT (水平断) PCD CT (水平断) PCD CT (3 次元画像)



キヤノンメディカルシステムズの PCD CT はプロトタイプですが、従来の CT に比べ、約 1/5 のサイズの微小構造を評価でき(従来 CT はおおむね 1.0mm まで、キヤノンメディカルシステムズの PCD CT は 0.2mm 程度のサイズのものまで描出可能)、放射線被ばく線量は 3-9 割の低減が見込まれています。

今後は、診断が難しい肝臓や脾臓などの腫瘍をより検出しやすくなるよう画

像の最適化を図るとともに、画像診断の精度を保ちながら可能な限り放射線被ばく量を低減化し、患者さんの負担を軽減しながら、高い診断精度を実現する次世代 CT 装置の開発を目指します。

【お問い合わせ先】

|                                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学院医系科学研究科 医学分野 放射線診断学研究室<br>Tel : 082-257-5257 FAX : 082-257-5259<br>E-mail : <a href="mailto:diagrad@hiroshima-u.ac.jp">diagrad@hiroshima-u.ac.jp</a> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|





第 174 回 学長定例記者会見 発表事項 3

令和 6 年 12 月 25 日

第 33 回ペスタロッシー教育賞  
表彰式・記念講演を開催します

広島大学教育学部とペスタロッシー教育賞実行委員会は、優れた教育実践を行っている個人・団体を顕彰する第 33 回ペスタロッシー教育賞の表彰式及び記念講演を令和 7 年 1 月 30 日（木）に東広島キャンパスで開催します。

記

受賞者：森下 弘 氏（もりした ひろむ）  
（NPO 法人ワールド・フрендシップ・センター 名誉理事長）

表彰式・記念講演

日 時：令和 7 年 1 月 30 日（木）12:50～14:20

表彰式 12:50～、記念講演 13:20～

場 所：広島大学学士会館 レセプションホール  
（東広島市鏡山一丁目 1 番 2 号）

主 催：広島大学教育学部、ペスタロッシー教育賞実行委員会

後 援：株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社

プログラム：

- ・主催者挨拶  
ペスタロッシー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
- ・祝 辞  
株式会社もみじ銀行取締役会長 小田宏史氏
- ・表彰状授与及び胸像贈呈  
ペスタロッシー教育賞実行委員会委員長（広島大学長）越智光夫
- ・記念品贈呈  
株式会社中国新聞社代表取締役社長 岡畠鉄也氏
- ・記念講演  
森下 弘 氏（もりした ひろむ）  
（NPO 法人ワールド・フрендシップ・センター 名誉理事長）

※記念講演終了後、記者会見を実施いたします。

※これまでの受賞者一覧等は、本学ホームページをご覧ください。

[https://www.hiroshima-u.ac.jp/ed/about/ed\\_tokusyoku/pestalozzi](https://www.hiroshima-u.ac.jp/ed/about/ed_tokusyoku/pestalozzi)

【お問い合わせ先】

広島大学教育学部内  
ペスタロッシー教育賞実行委員会事務局 西木  
Tel：082-424-7190 FAX：082-424-3478  
E-mail：ed-ken-zai@hiroshima-u.ac.jp



## 第33回ペスタロッチー教育賞表彰式及び記念講演

日 時 令和7年1月30日(木) 12:50～14:20  
表 彰 式 12:50～  
記念講演 13:20～

場 所 広島大学学士会館 レセプションホール  
(東広島市鏡山一丁目1番2号)

主 催 広島大学教育学部、ペスタロッチー教育賞実行委員会

後 援 株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社

受 賞 者 森下 弘 氏(もりした ひろむ)  
(NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター 名誉理事長)

### プログラム

#### 1 開会の辞

#### 2 主催者挨拶

ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長(広島大学長) 越 智 光 夫

#### 3 祝辞

株式会社もみじ銀行取締役会長 小 田 宏 史

#### 4 表彰状授与及び胸像贈呈

ペスタロッチー教育賞実行委員会委員長(広島大学長) 越 智 光 夫

#### 5 記念品贈呈

株式会社中国新聞社代表取締役社長 岡 畠 鉄 也

#### 6 記念講演

森下 弘 氏(もりした ひろむ)  
(NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター 名誉理事長)

#### 7 閉会の辞

### 【お問い合わせ先】

広島大学教育学部内

ペスタロッチー教育賞実行委員会事務局 西木

TEL : (082) 424-7190

E-mail : ed-ken-zai@office.hiroshima-u.ac.jp



広島大学

受賞者

森下 弘 氏（もりした ひろむ）  
（NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター 名誉理事長）



広島大学



広島大学

# 第33回 ペスタロッチー教育賞 表彰式・記念講演

日時 令和7年1月30日(木) 12:50~14:20

12:50~ 表彰式 13:20~ 記念講演

会場 広島大学学士会館 レセプションホール

参加の  
お申し込み

QRコードまたはURLをご利用ください  
申込期限:1月28日(火)  
<https://forms.office.com/r/AemVDKDhHG>



もり した ひろむ  
**森下 弘 氏**

NPO法人ワールド・フレンドシップ・センター名誉理事長

略歴

1930年10月生まれ。

14歳の時、爆心から約1.5km地点の学徒動員先で、同級生約70名と被爆。大学卒業後、教師となる。

1964年、バーバラ・レイノルズが提唱した広島・長崎世界平和巡礼に参加し、自らの被爆体験を世界に伝える。

その後も、ワールド・フレンドシップ・センター(WFC)の活動に参画し、

1986年、原田東岷医師の後任としてWFC理事長に就任。

長年、被爆教師として原爆・平和教育に従事。書家でもある。現在は、WFC名誉理事長。



ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチー (1746年~1827年)



Johann Heinrich Pestalozzi

スイスの教育家・教育思想家。  
教育の機会を与えられていなかった孤児や貧困家庭の子どもを対象に、「頭と心と手」の全人的教育の重要性を唱え、自ら学校を開いて、その有効性を世に示した。  
著書「隠者の夕暮」他

ペスタロッチー教育賞

広島大学教育学部では、株式会社もみじ銀行、株式会社中国新聞社の支援を得て、今日、我が国の極めて困難な教育状況の中で、優れた教育実践を行っている個人あるいは団体を顕彰するため、1992年に「ペスタロッチー教育賞」を創設しました。本賞は、ペスタロッチー精神に通じた教育実践を行っている個人あるいは団体に光を当て、その功績を顕彰することにより、もって現代の教育を見つめ直すきっかけとなることを期するものです。

お問い合わせ先

広島大学教育学部内 ペスタロッチー教育賞実行委員会事務局

✉ [ed-ken-zai@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:ed-ken-zai@office.hiroshima-u.ac.jp)

☎082-424-7190

主催 広島大学教育学部 ペスタロッチー教育賞実行委員会  
後援 株式会社もみじ銀行 株式会社中国新聞社

### 【第33回ペスタロッシー教育賞受賞者紹介文】

第33回ペスタロッシー教育賞受賞者に、森下 弘（もりした ひろむ）氏が選ばれましたので発表いたします。

### 【第33回ペスタロッシー教育賞 受賞者】

森下 弘（もりした ひろむ）

（NPO 法人ワールド・フレンドシップ・センター 名誉理事長）

### 【略歴】

森下氏は1930年10月26日に広島県大崎上島町に生まれた。14歳のとき、建物疎開作業中に鶴見橋付近で被爆し、顔や手足に受けた傷痕に苦しむ。戦後、新制広島大学文学部を卒業後、高校教師として教壇に立つ。60年にわたって証言活動を行うとともに、平和教育の教材・副読本作成や、高校生を対象とした大規模な原水爆意識調査、被爆者のその後の生き方の調査に携わり、核兵器廃絶を目指す市民運動・平和教育に尽力。30年勤めた廿日市高校を退職後は、島根大学、広島文教女子大学（現広島文教大学）で教授として指導を続けた。アメリカ人平和活動家・バーバラ・レイノルズ氏が1965年に創設したワールド・フレンドシップ・センター（2009年NPO法人化）の理事長を2012年まで務め、現在は名誉理事長に就任している。2024年4月には赤十字国際委員会（ICRC）に招かれ、ノルウェー・オスロを訪問。

### 【授賞理由】

森下氏は、自らの被爆体験を語るとともに、高校生を対象とした大規模な原水爆意識調査や平和教育の教材・副読本作成などを通じて、高校教師として被爆体験を次世代の子どもたちに伝える平和教育に長く携わってきた。今回はこの長年の活動が高く評価されての受賞となった。

被爆体験で負った傷痕を長らく語ることのなかった森下氏の転機となったのは、1963年の長女誕生であった。生まれて間もなくおっぱいにしがみつく生命力に心を打たれるとともに、原爆で真っ黒こげになった幼児が思い起こされ、「もう二度と子どもたちにこんな体験をさせてはならない」という強い思いから証言活動をはじめた。また、バーバラ・レイノルズの企画する広島・長崎世界平和巡礼に参加し、公民権運動に携わるアメリカの教師に、アメリカでは黒人問題について、教科書の記述は少ないが、日本では、原爆や放射能の影響について、十分な記述がされているでしょうねと問われ、そう思うと答えた。しかし気になり、帰国後に確認したところ、記述は少なかった。高校生を対象とした原水爆意識調査も本格的に行い、平和教育の教材や副読本を作成したり、映画「ひろしま」を高校生とともに視聴したりするなど、精力的に子どもたちと対話を重ねてきた。90歳を超え、体力の衰えを感じる現在でも、何万点もの平和活動関連資料をもとに、国内外に情報を発信し続けている。

「広島を考えることは、平和に対して責任を取ることです。」広島平和記念資料館に展示されているローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の碑文は、森下氏の揮毫によるものであり、何度も書き直して丁寧に仕上げられたという。ウクライナや中東での情勢が切迫する中、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協や全国被爆教職員の会と志を同じくしながらも、高校教師として、残酷な光熱により絶命した子どもへの責任を重く受け止め、未来を担う子どもたちにどう生きるのかと問いかけ続けてこられた森下氏の姿は、革命の混乱に巻き込まれた子どもたちに手を差し伸べたペスタロッシーの教育理念に沿うものであり、第33回ペスタロッシー教育賞を贈呈し、その類まれな、優れた功績を顕彰したい。

**ペスタロッチー教育賞 歴代受賞者**

|      | 表彰式実施年度 |      | 個人・団体                                  |         | 備考 |
|------|---------|------|----------------------------------------|---------|----|
|      | (西暦)    | (和暦) | 教育賞                                    | 特別賞     |    |
| 第1回  | 1992    | H4   | 宮城 まり子                                 |         |    |
| 第2回  | 1993    | H5   | 谷 昌恒                                   |         |    |
| 第3回  | 1994    | H6   | 児玉 三夫                                  |         |    |
| 第4回  | 1995    | H7   | 山田 洋次                                  |         |    |
| 第5回  | 1996    | H8   | NHK名古屋放送局テレビ番組「中学生日記」制作スタッフ            |         |    |
| 第6回  | 1997    | H9   | 本吉 修二                                  |         |    |
| 第7回  | 1998    | H10  | 黒柳 徹子                                  |         |    |
| 第8回  | 1999    | H11  | 社会福祉法人広島新生学園                           |         |    |
| 第9回  | 2000    | H12  | 丸木 政臣                                  |         |    |
| 第10回 | 2001    | H13  | 佐野 浅夫                                  |         |    |
| 第11回 | 2002    | H14  | 社会福祉法人似島学園                             |         |    |
| 第12回 | 2003    | H15  | 九里 茂三                                  |         |    |
| 第13回 | 2004    | H16  | 中野 光                                   |         |    |
| 第14回 | 2005    | H17  | アグネス・チャン                               |         |    |
| 第15回 | 2006    | H18  | 津守 眞                                   |         |    |
| 第16回 | 2007    | H19  | 昇地 三郎                                  |         |    |
| 第17回 | 2008    | H20  | 松田 実                                   |         |    |
| 第18回 | 2009    | H21  | 西谷 英雄                                  |         |    |
| 第19回 | 2010    | H22  | 金森 俊朗                                  |         |    |
| 第20回 | 2011    | H23  | 高谷 清                                   | あしなが育英会 | ※1 |
| 第21回 | 2012    | H24  | 一般社団法人「実践人の家」                          |         |    |
| 第22回 | 2013    | H25  | 奥地 圭子                                  |         |    |
| 第23回 | 2014    | H26  | 水谷 修                                   |         |    |
| 第24回 | 2015    | H27  | 渡辺 和子                                  |         |    |
| 第25回 | 2016    | H28  | 湊 晶子                                   |         |    |
| 第26回 | 2017    | H29  | 中本 忠子                                  |         |    |
| 第27回 | 2018    | H30  | 和田 晋、児童養護施設舞鶴学園                        |         | ※2 |
| 第28回 | 2019    | R1   | 大石 由紀子                                 |         |    |
| 第29回 | 2020    | R2   | 村井 実                                   |         |    |
| 第30回 | 2022    | R4   | MISIA                                  |         | ※3 |
| 第31回 | 2022    | R4   | 北川 聡子                                  |         |    |
| 第32回 | 2023    | R5   | 特定非営利活動法人 学習障害児・者の教育と自立の保障をすすめる会 見晴台学園 |         |    |
| 第33回 | 2024    | R6   | 森下 弘                                   |         |    |

※1 第20回を記念し、「教育賞」に加え「特別賞」も授与。

※2 1個人と1団体に「教育賞」を授与。

※3 コロナ禍のため2021年度ではなく、2022年度に実施。



第 174 回 学長定例記者会見 お知らせ事項 1

令和 6 年 12 月 25 日

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業  
(通称 J-PEAKS)」の取組に関する報告

日本全体の研究力を牽引する地域中核拠点として、昨年度、広島大学は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(通称 J-PEAKS)」に採択されました。

本学は、半導体・超物質、再生・細胞医療・創薬の融合研究領域を中心に、世界的に稀少な紫外線(UV)領域の放射光による可視化を基盤として、研究力向上戦略を推進します。また、「人・知・資源の好循環」のハブとして異分野融合エコシステムを形成し、国際頭脳循環・産業集積を促進します。

地域中核拠点の形成に向けた本学のさまざまな取組みについて、最新情報をお知らせします。

(1)重点拠点所属学生の受賞等

本学は、J-PEAKS を通じて異分野間の融合研究・連携を推進するだけでなく、将来の科学を担う若手研究者の育成にも力を入れています。

J-PEAKS の重点拠点である放射光科学研究所において研究を進める学生の各賞受賞等の状況についてお知らせします。

◆日本物理学会学生優秀発表賞

大学院先進理工系科学研究科 物理学プログラム(博士課程前期)

浅井 佑哉(あさい ゆうや)氏

発表タイトル: 単一電子からのアンジュレータ放射の光子統計

◆「未来博士3分間コンペティション<sup>(※1)</sup>」優秀賞

大学院先進理工系科学研究科 物理学プログラム(博士課程後期)

橋本 聡(はしもと さとし)氏

発表タイトル: 放射光が映し出す、タンパク質の形と性質

◆日本学生支援機構(JASSO)が外国人留学生受入れ支援のモデルケースを紹介する記事「Study in JAPAN」においてインタビュー記事掲載

大学院先進理工系科学研究科 物理学プログラム(博士課程後期)

Yogendra Kumar(ヨゲンドラ クマール)氏

(※1) 未来博士3分間コンペティション

博士課程後期学生が3分間の限られた時間内に自身の研究のビジョンと魅力を分かりやすく伝えるスピーチ大会。

(2) J-PEAKS シンポジウムを 2025 年 2 月 28 日(金)に開催予定

来年 2 月 28 日(金)、本学では「地域に愛され、世界から選ばれる大学の実現に向けて」J-PEAKS を通じた Hiroshima Research & Innovation Valley

の構築ー」(仮)をテーマとして、J-PEAKS のシンポジウム開催を予定しています。詳細は、本学ホームページ等を通じて、あらためてご案内しますが、多くの方々のご参加をお待ちしております。

【開催概要】※

日 時 2025 年 2 月 28 日 (金) 13:00-17:00 (予定)

会 場 広島大学霞キャンパス 凌雲棟 5F

参加形式 ハイブリッド開催ー参加費無料 (後日 YouTube 配信)

テ ー マ 「地域に愛され、世界から選ばれる大学の実現に向けてーJ-PEAKS を通じた Hiroshima Research & Innovation Valley の構築ー」  
(仮)

※ 記載の内容は今後、変更される可能性があります

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 (J-PEAKS) とは？

地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営のもと、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力を強化することで、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的としている。Program for Forming Japan's Peak Research Universities の通称。広島大学は 2023 年度に採択され、2028 年度までの 6 年間で総額 55 億円の財政支援が予定されている。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室

未来共創科学研究本部

研究戦略部 研究戦略グループ 前田

TEL:082-424-5656

Mail:gakujutu-strategy-gl@office.hiroshima-u.ac.jp





令和 6 年 12 月 25 日

公開セミナー  
『少子化とジェンダー平等：地域間格差を考える』  
を開催します（1/22 開催）

広島大学と島根大学で共同実施している文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」（令和 5 年度採択）では、海外の大学・研究機関におけるジェンダー平等の取組について調査を進めております。この度、国連大学 白波瀬 佐和子上級副学長を講師にお招きし、下記の通り少子化とジェンダー平等をテーマに公開セミナーを開催いたします。

- ◆日 程：2025 年 1 月 22 日（水）13:00-14:30
- ◆会 場：広島大学ミライクリエ 2 階大会議室（東広島キャンパス）
- ◆講 師：白波瀬 佐和子（しらはせ さわこ）氏  
（国際連合大学 上級副学長/国際連合 事務次長補）
- ◆対 象：学生、教職員、一般の方（どなたでもご参加頂けます）
- ◆言 語：日本語
- ◆定 員：70 人
- ◆参加申込：下記 URL、または添付フライヤーに記載された QR コードからお申込みください。  
<https://forms.office.com/r/jD05rTbax8>  
【申込締切】2025 年 1 月 17 日（金）

- ◆イベント URL：<https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/87205>
- ◆当日の取材：可能（セミナーの傍聴、講師や受講者へのインタビューなど）。ただし、講師へのインタビューはセミナーの直前と直後をお避けください。なお、取材をご希望の際は、以下のお問い合わせ先へご連絡ください。

＜会場案内図＞



【お問い合わせ先】

広島大学 ダイバーシティ&インクルージョン推進機構内  
ダイバーシティ調査分析TF事務局  
TEL:082-424-7616





広島大学



島根大学



UNU

公開セミナー

# 「少子化とジェンダー平等： 地域間格差を考える」

参加無料

広島大学・島根大学「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」事業では、海外大学のジェンダー平等の取組について調査を進めております。この度、国連大学 白波瀬佐和子上級副学長を講師にお招きし、少子化とジェンダー平等をテーマに公開セミナーを開催いたします。ぜひご参加ください。

国際連合大学 上級副学長  
国際連合 事務次長補

## 白波瀬 佐和子氏

講師紹介：

東京大学大学院農学生命科学研究科の特任教授。

1997年にオックスフォード大学で社会学の博士号を取得後、2006年に東京大学に助教授として着任、2010年に社会学部の教授に就任。2019年から2021年までは東京大学の理事・副学長を歴任。

専門は社会階層論で、特に、ジェンダーと世代の観点から社会的不平等に関する研究に取り組む。最近の著書として、Social Stratification in an Aging Society with Low Fertility: The Case of Japan (ed.)をSpringerのEconomy and Social Inclusionシリーズより2022年に刊行。

2025年  
1月22日（水）  
13:00～14:30

### 参加申込方法

申込：下記URLまたは右記二次元コードからお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/jD05rTbax8>

締切：2025年1月17日（金）



#### 会場

- ・ 広島大学ミライクリエ2階  
大会議室（東広島キャンパス）

#### 言語

- ・ 日本語

#### 対象

- ・ 学生、教職員、一般の方  
どなたでも
- ・ 事前申し込みをお願いします

お問い合わせ

広島大学

ダイバーシティ&インクルージョン推進機構内  
ダイバーシティ調査分析TF事務局

E-mail: [ura-women@office.hiroshima-u.ac.jp](mailto:ura-women@office.hiroshima-u.ac.jp)

主催： 広島大学・島根大学共同事業

「地方における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための調査分析」

共催： 国際連合大学